

シビウ国際演劇フェスティバル

シビウ国際演劇フェスティバルとは

- イギリスのエジンバラ国際演劇フェスティバル、フランスのアヴィニオン国際演劇フェスティバルとならぶヨーロッパ三大演劇祭の一つ。
- 毎年世界の約70ヶ国から約350の団体が参加し、10日間にわたり街全体を使って演劇・ダンス・ストリートパフォーマンス等、クオリティーの高いパフォーマンスが繰り広げられ、毎年70万人の観客が世界から集まる人気のフェスティバル。(シビウの人口17万人)
- また、シビウ国際演劇祭は、故・中村勘三郎が率いる「平成中村座」の最初のヨーロッパ公演の地として知られ、日本の舞台芸術との交流が行われてきたが、これまで能楽が招聘されたことはなく、山本能楽堂が初めてシビウ演劇フェスティバルに招聘を受け、能の公演で参加した。



- 1993年、3か国から8公演の参加が演劇祭のスタート。
総合監督のコンスタンティン・キリアック氏が、
1989年のルーマニア革命で炎上した劇場の復興に尽力し、
フェスティバルを立ち上げ、シビウを化都市として再生。
- シビウは、ルーマニアの中央に位置する中世の街並みそのまま残る
美しいまちであるが、まち全体を使って、10日間で472の演目が上演される。
会場：ラドゥ・スタンカ国立劇場を中心に、市内の劇場や美術館、
広場やストリート、学校や教会、遺跡など60カ所を越える屋内外の場所が
会場となり公演が行われる。
- 事業規模：約10億円（2008年度）
大統領の後援を受け、政府からの直接的な支援。
約35% 文化省、外務省、県庁、シビウ市役所
約30% 国際的なプロジェクトからの支援
約10% チケット収入 ¥ 約25% スポンサーからの協賛
* 1日に6~7万人が訪れることで経済効果が認められ協賛

大広場、小広場、メインストリートを中心に10日間に472のイベントが開催される。



- 銀行、自動車会社、放送局、地元企業などからの多くの協賛。
- 世界中から集まるボランティアスタッフ





メインストリート・大広場・小広場で絶え間なく舞台芸術が上演されるが、会場を取り囲むように、オープンエアのレストランやカフェが設営されており、飲食をしながら演劇を鑑賞できる客席としての役割も担っている。ほとんど全てのお店が常時ほぼ満席の状態。大きな経済効果が見込める。



【ストリートライブ能】

ガラパーティの前に会場の外でゲリラライブを開催。

映画「ショーシャンクの空に」の主演男優 ティム・ロビンズにも熱心にご覧いただいた。



【 国立交響楽団ホールで 能「安達原」を上演】

- シビウの観客のレベルの高さ。
日本と全く同じように能を上演してほしいとの
依頼。(公演前の解説やワークショップはなし)
- チケットは即日完売、立ち見の方も出る中、
スタンディングオーバーベーションを受ける。



(会場の国立交響楽団ホール)

ルーマニア人だけでなく、
アメリカ人、オーストラリア人
など世界中からの観客。



■ルーマニアのメディア約20で取り上げられる。

鬼女の装束の華麗さ、謡の深い声、和楽器の響きなどを含め、かつて知らなかった伝統芸能の美に驚いた！

キリアック氏のコンサルタントでもあるパリ在住の演劇評論家、ジョルジュ・バニュ氏のコメント
「能に初めて出会う文化の違う環境で育った観客が、舞台に引き付けられている様子に心を打たれた」



■ 内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局による、オリンピックパラリンピックに向けた「文化を通じた盛り上げ」にかける試行プロジェクトを受託。

(オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査文化を通じた機運醸成試行プロジェクト)

■ 新作能「水の輪」

- ・水都大阪2009の最終日を彩るイベントとして、当時新しく整備された天満橋・八軒家浜で開催。
(大阪観光局助成事業)
- ・水の浄化をテーマに環境問題を考える新作能。伝統芸能の力で「水を大切にする気持ち」で世界を一つに結ぶ。
- ・これまでに国内外で15回再演を繰り返してきた。



大阪発の文化イベントで、2020年のオリンピック・パラリンピックを盛り上げさせていただければと思っています。

